

# 強者の戦略

2021年度 東大地理 2問〔解答解説編〕

いかがでしたか？問題文の誘導にある程度乗って、答案を作成できましたか？共通テストも同様な誘導問題が多く出題されるので、よく読む習慣を付けるようにしてくださいね。では、解説を始めていきます。

## 【解答】

### 設問A

- (1) (ア)ー中国語 (イ)ーアラビア語  
(ウ)ースワヒリ語
- (2) 共通語である英語話者が増加し、英語の国際的地位が上昇した。(29字)
- (3) インドでは州ごとに公用語、準公用語として英語があり、ヒンディー語は北部で使用されるだけだが、インドネシアでは様々な地域語はあるが、国民統合のためインドネシア語が全域で使用される。(89字)
- (4) 広東語。中国南部からすず鉱山などの労働者として華僑が東南アジアに進出し、その後お互いが助け合って華人社会を築いたため。(59字)

### 設問B

- (1) Aーインド Bー韓国 Cーマレーシア C国ではブミプトラ政策があり、進学が困難な非マレー系の学生が旧宗主国のイギリスや近接するオーストラリアなどの英語圏へ留学している。(84字)
- (2) アジア圏から距離が近接し渡航費が安く済み、また、多文化主義政策を採用し、様々な民族へ寛容な姿勢が見られるため。(55字)
- (3) 過度な学歴社会で留学経験が重視され、また国際競争力を高めたグローバル企業が英語能力の高い人材を獲得しようとするため。(59字)

## 【解説】

### 設問A

- (1) 結構難しい問題だと思います。特に日本史・地理選択者には鬼門の問題になったかもしれません。現在の経済水準や国際社会への影響力から考えれば(ア)はドイツ語で良さそうな気がします。ですが、国連憲章(1945年署名)はもともと第二次世界大戦の戦勝国を中心に作成されたものなので、敗戦国のドイツ語が規定されていたとは考えにくいのです。となれば、常任理事国の中国語が当てはまりそうです。次に(イ)を判断するのですが、ここでもドイツ語は入りにくくなっています。(イ)の後ろの文章に、「これら6カ国語以外にも、広大な国土の広い範囲で、あるいは国境を越える広い範囲で、異なる母語を持つ人々の間で共通語・通商語として用いられている言語が存在する」とあります。

ドイツ語は、ドイツやオーストリア、スイスなどで話されていますが、「国境を越える広い範囲」という表現に似つかわしくありません。では結局何語なのでしょう？答えはアラビア語です。アラビア語は2018年度、世界で5番目に言語人口の多い言語となっています。北アフリカ～中東と広い範囲で使用されています。言

われてみればそうかなと思えても、本番で思いつけるかどうかは鍵になりますよね。みなさんは思いつけましたか？

最後は(ウ)です。これは簡単と言っていいかどうかは分かりませんが、過去のセンター試験でも出題されているレベルですので、受験本番までには覚えるようにしてください。正解はスワヒリ語です。

①世界のおもな言語人口

	2018	百万人
中国語		1311
スペイン語		460
英語		379
ヒンディー語		341
アラビア語		319
ベンガル語		228
ポルトガル語		221
ロシア語		154
日本語		128
ランダ語		119
マラーティ語		83
テルグ語		82
マレー語		80
トルコ語		79
韓国・朝鮮語		77
フランス語		77
ドイツ語		76
ベトナム語		76
タミル語		75
ウルドゥー語		69
ジャワ語		68
イタリア語		65
ベルシャ語		62

(注)第一言語による区分

# 強者の戦略

東アフリカと南アジアの間では季節風貿易がかつて行われていました。世界史では教科書に載っている用語だと思いますが、地理選択者には初見かもしれませんね。一応説明しておく、船が動力によって稼働できる時代の前には、帆を立てて風の力だけで航行する船によって交易が行われていた時代がありました。東アフリカと南アジアの間では、夏季の南西季節風、冬季の北東季節風を用いて両地域の往来と交易を行っていました。この交易が季節風貿易です。

この地域はイスラム商人が交易を担っていたこともあり、独特の通商用語も増えていきました。この交易で使用された通商用語が東アフリカに浸透していき、スワヒリ語が誕生したと言われています。どうでもいい情報ですが、「こんにちは」が「ジャンボ」、「さようなら」が「ハバーリ」です。英語の問題集の名称でも使用されている「ポレポレ」は「ゆっくり」という意味だそうです。

- (2) この問題は論述問題ですが2択に絞られると思います。国際共通語である英語の地位が上昇した、と書くか、様々な言語が話されるようになり多様化した、と書くかだと思います。ここでどちらの述べ方を選ぶかについては、ここが重要なのですが、**問題文をよく読んでください**。東大の問題文では、問題文が大きなヒントになっていることがよくあります。問題文に「世界の言語状況をみると、これら6カ国語以外にも、広大な国土の広い範囲で、あるいは国境を越える広い範囲で、異なる母語を持つ人々の間で共通語・通商語として用いられている言語が存在する」と書かれてあります。現在、世界的に使用されている言語の存在を示しているわけなので、「様々な言語が話されるようになり多様化した」と書く方向性は論調からすると違っていると思います。なので、さきほどもしましたが、「国際共通語である英語の地位が上昇した」という方向性で書いてください。出題者の意図をくみ取りながら答案を作成する意識を

強くしてください。

- (3) この問題の難易度はやや高いですが、インドの内容は教科書・参考書などに掲載されているはずなので、部分点は取れそうです。インドの公用語は北部で話されているヒンディー語ですが、各州ごとに公用語が設定されていることもあり、ヒンディー語を話す人口は3億4000万人ほどです。インドの総人口が約14億人であることを考えると、約4分の1程度の人口が話しているだけになります。準公用語に英語が設定されていることも重要な知識です。ここまでに「インドでは各州ごとに公用語、準公用語として英語があり、ヒンディー語は北部で使用されるだけ」という答案は書けるはずですが、もう十分2点は取れていると思います。あとは、どれだけインドネシアの記述で点数を獲得できるかになります。ここで、答案の方向性を意識してください。インドで公用語が狭い範囲でしか使用されていない現状があるのであれば、東大の問題の傾向からすると、インドネシアでは公用語が全域で使用されている、という方向性で書いた方が良さそうです。実際、この事実を知っていれば余裕で答案が作成できると思いますが、すべての知識を知り尽くして入試会場に足を運ぶ受験生は皆無だと思いますから、対比構造があるんじゃないかと予測してほしいです。あとは、「地域語がまったくなくインドネシア語だけが全域で話されている」と書くか、「異なる地域語もあるがインドネシア語が全域で話されている」と書くか、ここはもう少し答案の幅は広がるかも知れませんが、ほぼ2択に絞ることができると思います。みなさんは、どちらの方向性が良さそうかわかりますか？もうわかりますよね。問題文の方向性を意識し、「インドネシアでは様々な地域語はあるが、国民統合のためインドネシア語が全域で使用される」となります。
- (4) 広東語(カントン語)が一番有名だと思いますけど、難易度はどうなのでしょうね。あんまり私の

# 強者の戦略

授業でも広東語を扱うことがないので、高校3年生がみんな知っている言語かどうかは定かでないです。一応、華僑は中国南部の広東省・福建省から東南アジアに出稼ぎに行った人たちのことを主に指します。もともとはず鉱山などの鉱山労働者として移住し、現在は金融や商業などに従事するようになり所得が上がってきています。現地の国籍を取得した華僑を華人と呼ぶ場合もあります。異国の地で労働に従事した華僑の人たちはお互いに助け合って地域コミュニティを形成していったので、いまだに広東語が広く用いられています。

## 設問B

(1) この問題は、問題文の「1万人に対する4つの国への留学者数」の下線部分に注目しなければなりません。人口が大きい国ではこのような数値は小さくなるため、表中の数値がおおよそ低くなっているAがインドに該当します。4つの数値の和が、Bでは213.6人、Cでは133.9人となっており、Bの方が留学に対して前向きな国であると判断できます。この特徴は(3)で問われているので、解説は後回しにしましょう。ここでは、アメリカ合衆国への留学生が多いこと背景を探ります。ここで、韓国とアメリカ合衆国との関係を考えてみます。韓国とアメリカ合衆国との関係は、1950～1953年まで行われた朝鮮戦争、その後結ばれた米韓相互援助条約など、戦後から親密性が増していったと考えてください。冷戦体制において、韓国が資本主義陣営に属したことが背景にあります。以上のことから、マレーシアよりも韓国の方がアメリカ合衆国との関係が親密で、留学者数が多くなると考えて、Bが韓国になり、Cがマレーシアとなります。

ここからの内容は難しいと思いますが、マレーシアの学生の留学状況については、ブミプトラ政策との関連があります。この政策は、マレーシアにおけるマレー人優遇政策のことで、中国系マレーシア人に対して、比較的劣位にあるマレー人の

政治的・経済的・社会的地位の向上を目指す政策でもあります。大学の進学に際しても、非マレー人では入学の制限を受けることもあります。なので、非マレー人などの学生にはマレーシアの大学ではなく海外の大学への留学を目指す学生もおり、彼らにとっては旧宗主国のイギリスや距離的にも近接するオーストラリアが人気の留学先になっています。

(2) 「表に挙げられている国の間」とあるので、アジア圏からの人気の理由を考えることになります。まず、簡単なこととしては距離がある程度近いことですよね。渡航費が安くなりますし、時差も小さくなります。治安も良さそうです。あと、大体の人は東側の都市(シドニーやメルボルンなど)に留学すると思いますが、赤道からある程度近く、温暖湿潤気候(Cfa)や西岸海洋性気候(Cfb)となっている地域もあり、非常に過ごしやすい環境になっています。ゴールドコーストなどは海岸保養地としても有名で、2008年の東大の入試問題でも問われていました。

上記の内容は推測すればある程度思いつけると思いますが、受験地理知識で言えば、オーストラリアが多文化主義を採用していることも挙げられます。1979年に白豪主義が撤廃され、その後は、アジアやその他の地域からの移民を受け入れる、多民族に寛容な風土が醸成されています。

表1で1985年～2005年の永住者数の変化をみると、オーストラリアでの増加率が大きい。オーストラリア国内では、シドニー、メルボルンと並んで、ゴールドコースト、ブリズベンで多くなっている。ゴールドコーストやブリズベンで永住者が増加した理由を2行以内で述べなさい。[2008年度 東大入試問題抜粋]

(3) 東大が指定ワードに「学歴社会」を入れてくるあたりに、逆に、どうも「学歴社会」を肯定的に捉えていない感じがします。私だけでしょうか…。

# 強者の戦略

話を戻すと、韓国の留学事情を「学歴社会」と「国際競争」を用いて述べる問題です。

韓国の過度な学歴社会の背景には、財閥主導の経済のため中小企業が育っていないという状態があります。中小企業が少ない韓国では多くの学生が希望する就職先は、財閥系の大手企業です。しかし入社できるのは一部の学生のみです。有名な大学に入らなければ将来が開けないということで、韓国では教育熱がとて高いものがあります。また、韓国の学生にとって、英語ができるということが非常に重要です。韓国の国土面積は日本の4分の1ほどで、人口も半分程度です。国内市場が小さいので、マーケットを海外に求めるのは必然となっています。そのために国際競争力を上げたい企業は英語ができる人材を求めます。就職の際に留学経験があれば有利に働くことになるので、英語が学べるアメリカ合衆国へ留学する韓国人が多くなっています。

これで東大の2021年度第2問の解説は終了です。来年度も東大の問題を解説するつもりでいます。それまでにしっかり頑張って実力を上げておいてくださいね！